

デジタル技術導入推進事業 15,000 千円(電気:5,000 千円 工水:10,000 千円)

(1) 趣 旨

水力発電所や工業用水道の管路や導水トンネルの点検、維持管理等において、デジタル技術を導入することで、作業の効率化や安全を確保し、電気及び工業用水の安定供給体制の強化を図ります。

POINT

デジタル技術を活用し、効率的・効果的な維持管理や計画的な老朽化対策などを実施することで、電気及び工業用水の安定供給を確保

(2) 事業内容

① AIによる導水路点検・診断システムの開発

無人カメラを活用した通水状態での導水トンネルの点検等における損傷状況等の自動判読、健全性の診断等の高度化

【現在の導水トンネル点検状況】



《断水による点検》



《潜水による点検》

② リモート現場管理の推進

- ・ リモート現場管理端末を活用し、現場立会や点検作業を効率化
- ・ 工水受水企業において、遠隔検針システムを活用し、リアルタイムで正確な給水量を把握

新BCP策定 48,500 千円（電気：10,000 千円 工水：38,500 千円）

(1) 概要

大規模地震・風水害や突発的な事故等においても、電気及び工業用水の供給を継続するため、新たな事業継続計画（BCP）を策定します。

POINT

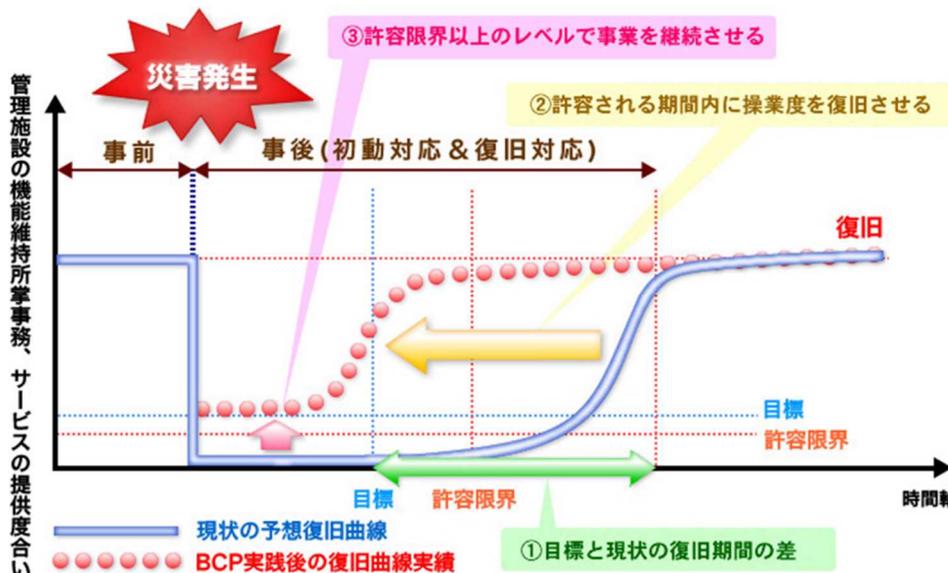
実際の被災時を想定し、ユーザー企業や関係機関における事業復旧見込みなどを勘案し策定

(2) 事業内容

災害等により緊急事態が発生した際、施設等の損壊を最小限に留めつつ、早期復旧し、事業を継続するため、緊急時における事業継続の方法及び手段などをまとめた計画を策定

事業継続計画(BCP)の概念

【工業用水道施設の漏水事故の例】



関東地方整備局HP：<https://www.ktr.mlit.go.jp/bousai/bousai00000162.html>

さらに、平常時からの取組、継続的な改善を行う事業継続マネジメント（BCM）の取組みにより、策定後は訓練や見直しを通じて内容をより実践的なものにし、より実効性のある計画として運用・実践を行います。

【電気事業・工業用水道事業（共通）】

水源林整備推進事業 23,000 千円(電気:6,000 千円 工水:17,000 千円)

(1) 概要

森林の持つ水源涵養機能の維持・増進を目的として、県農林水産部の実施する水源ダム上流部における間伐・再造林事業に対して支援し、森林整備の促進を図ります。

(2) 事業内容

水源ダム上流部 14 箇所 計 645 ha (間伐: 601 ha、再造林 44 ha)
(参考) 令和 3 年度実績 水源ダム上流部 11 箇所
計 605 ha (間伐: 563 ha、再造林 42 ha)

【電気事業・工業用水道事業（共通）】

水を守る森林づくり推進事業 2,400 千円(電気:800 千円 工水:1,600 千円)

(1) 概要

森林の持つ水源涵養機能についての理解醸成を図るため、県農林水産部との共催により、利水企業等と協働で水源の森林づくり活動に取り組みます。

(2) 事業内容

水源ダム上流部又は水源地域の 5 地区において、除伐等の森林づくり活動を実施
(参考) 令和 3 年度実績 参加企業数: 75 社
参加者: 481 人 (企業参加者のみ)



《水を守る森林づくり活動》